

2019年度 特別研究推進費実績報告書

2020年 4月 28日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 基盤教育センター・教授
(氏名) 西田 心平

2019年度に交付を受けた特別研究推進費に係る研究実績について、
次のとおり報告します。

研究課題名	観光地に隣接した居住地域のランドデザイン					
実施内容・研究成果の要旨 (概要書を別途添付)	<p>■本研究の目的は、北九州市門司区の門司港地域を事例として、観光地に隣接した居住地域の将来展望像を描くことである。具体的な対象地域は、いわゆる「レトロ地区」に隣接した錦町や庄司、清見各校区の一部を含んだ圏域である。■方法は、地域創生学群で実習科目および演習科目を担当する西田とそこで学ぶ学生とが、門司港での地域活動に取り組みながら、現在、地域に求められていると考えられる「対話の場」づくりを行うことである。こうした目的、対象、方法に即して以下のことに取り組んできた。■第1に、錦町と庄司の各校区の一部をまたぐ栄町銀天街の一店舗（モノはうす：2009年より栄町銀天街振興組合と門司港レトロ課の契約のもと、北九州市立大学地域創生学群担当教員西田が運営）を拠点として、大きく3つの地域活動に取り組んだ。①外国人観光客を対象とした日本文体験ブースの運営。②銀天街を活用した中規模イベント。③「レトロ地区」と銀天街地区との動線づくり。■第2に、居住地域と重なる観光地の管理運営について、先進的な取り組みを実施している京都市姉小路界隈まちづくり協議会、同市有隣学区まちづくり委員会へのヒアリング調査である。■第3に、「対話の場」づくりの実験的な試みとして、西田ゼミ（門司実習を含む）、栄町銀天街振興組合、門司港レトロ課の3者での「座談会」を定例化（毎月第3水曜）したことである。地域活動を通して学生が収集した観光客からの情報や街への反応を関係者と共有・意見交換する場を定着させた。■成果としては、将来展望像についての「対話」には至らなかったが、そのプロセスにおいて不可欠と思われる、銀天街を中心とした地元の関係者が将来の観光地化を正面から受け止めるための「対話」が可能になったことである。地域の外部における、高校教員や高校生などの教育機関との連携も深めることができた。</p>					
	使用内訳（単位：円）					
交付決定額	525,880	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
支出額	406,245	0	174,426	52,200	1,919	177,700
執行残額	119,635	0	-134,426	185,680	158,081	-89,700
共同研究者	所属・職名	氏名		役割分担等		
	基盤教育センター・教授	西田 心平		調査研究の実施、統括		